

つくばで輝く研究者

KURODA Nobu 黒田 乃生 さん

筑波大学芸術系（世界遺産学学位プログラム） 教授



兵庫県出身。1987年京都大学農学部林学科卒業。2000年東京芸術大学美術研究科修了。2003年東京大学農学生命科学研究科修了。博士（農学）の学位を取得。筑波大学大学院人間総合科学研究科助教授を経て、15年より現職。文化庁文化審議会世界文化遺産部会委員や各市町村の文化財関係の委員などを務めている。令和3年度のつくばSociety 5.0社会実装トライアル支援事業では「VRを用いた市民参加型 遺跡のデータドネーションアプリ開発のためのトライアル」が採択され、この2月には実証実験が平沢官衙（かんが）遺跡で行われた。

《文化財を次の世代につなぐ》



山形県飯豊町の散居村調査の様子

研究対象は岐阜県白川郷の合掌造り集落など「農村地域の風景」。1995年にユネスコ世界遺産に登録された白川郷は、急峻な山々に囲まれた集落に合掌造りの家屋が立ち並び景観はもろろん、暮らしを営む場として受け継がれる相互扶助の生活や文化が高い評価を得たとされる。観光地として名をはせる一方、生活の場でもあるこの景観を次世代に引き継ぐため、地域の人や多分野の研究者とともに研究を深めている。また、文化遺産や自然遺産の保護を体系的に学ぶ、筑波大学大学院「世界遺産学学位プログラム」で遺産保護の舞台で

研究対象は“風景”

文化遺産や自然遺産を次世代につなぐ

活躍する専門家の育成を担っている。

《造園から建築、集落の風景へ》

兵庫県生まれ。小学4年まで神奈川県、高校まで岡山県で育った。虫好きが高じて小学5年の夏休みにアリの対象にした自由研究で受賞。おとなしくて手がかららない、真面目な子「だったという幼少期の夢は、砂漠を緑化して地球を救うこと」。高校は地域で唯の普通科に進み、文理選択で理系生物を選んだことから大学は農学部に進学。研究室決めのじゃんけんに負けたり、いろいろあつて「造園を学ぶことが結果的に現在につながった。『京都大学の自由な校風が、真面目な田舎の学生だった私の人生を変えたことを自由になつていいと学んだことが今の研究に大きく影響しています』。大学卒業後は住宅会社で外構デザインに従事。外構を通して建築に興味を広がり、芸術



趣味の家庭菜園での収穫物。ザルは白川郷の伝統的な「ひで細工」

つくばの生活

分野から建築を学ぼうと東京芸術大学で修士を、東京大学で博士を取得。文化財保存学を学び、集落の景観へと対象が広がった。「現在の研究は多分野の研究者が関わっています。私も始めは思い描いた進路ではありませんでしたが、学びながら好きなこと、やりたいことを探して今の職にたどり着きました。進路に迷っている人は『好き』を追求してほしい。いつでも修正はできます」。

筑波大学教員の夫と2人暮らし。つくばは歴は18年。生活の利便性の良さとのおんやりとした風景のバランスが気に入っている。「ジャンルを問わずおいしいお店がたくさん。直売所やこだわりの店も多く、毎日の食を楽しんでいます。つくばは本当に居心地が良く暮らしやすい街です」。